

平成 30 年度 経口摂取支援研修会開催される

日時 H30 年 11 月 18 日 (日) 9:50~15:00

会場 東部会場 島根県歯科医師会館

西部会場 島根県歯科医師会館 西部会館

参加人数 126 人

講演 1 「地域包括ケア時代の食支援」

講師 錦海リハビリテーション病院 院長 角田 賢先生

キーワード (自己決定 ネットワーク 地域包括ケアシステム 経口摂取支援)

地域ケアシステムとは可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう地域の包括的な支援サービス提供体制である。自分らしい暮らしとはその人が望む人生を送ることが出来るかという事、健康寿命や介護が必要になっても安心して暮らせる仕組み作り、本人が生き方を選択し自らがどう生きるかを考え決定することが求められる。その決定を我々医療介護の関係者がサポートする必要がある。経口摂取という視点から見えてくるその人らしく生きる事 本人の意思決定 食べることに関わる多職種連携の中に解決策がある。食べることは人間の欲求の一つでありとりわけ嚥下訓練は多職種共同が最も重要な部分である。どのようなチームに本人が出会い意思決定を援助してもらいどのように関わってもらって自己決定が出来たか、どのように生きどのように死んでいくのかは地域包括ケアの根本に含まれている。

講演 2 「食べる事を支える地域ケアシステム

～美味しく楽しく医科歯科連携～」

講師 医療法人 裕心会 落久保外科 循環器内科クリニック

理事長 落久保 裕之先生

キーワード (意思決定 ACP 物語 (ナラティブ) チームアプローチ)

高齢者増加により誤嚥性肺炎は増加すると見込まれ口腔ケアの重要性が認識され多職種によるチームアプローチの対応が求められている。自分らしく生きることの根底にある食べる楽しみの支援には地域における支援体制づくりと専門職の連携体制づくりが重要でコーディネートする人材機関が必要だ。 食べることは生きる事、本人が望む暮らし信頼されるチームアプローチそれぞれの専門職は何が出来るか自分には何が出来るのか。患者様の物語、思いにどこまで専門職として寄り添えるのか、人生の最期に幸せだったと思っただけなのか、経口摂取支援から見えてくる本人を取り巻く支援体制の強化連携が重要である。
(島根県介護支援専門員協会担当者)